

いいんだわあ～

～先輩移住者に聞きました！～

# いわみざわ暮らし

すでに岩見沢暮らしを楽しんでいる先輩移住者にお話を伺いました。岩見沢って、いかがですか？

視点を換えれば宝の山！  
岩見沢は  
いろんなことにチャレンジしやすい町だと思います。

## 島根県から1ターン

### たけした しんや 竹下 真也さん

島根県出身。北海道教育大学岩見沢校へ進学後、定住。在学中に知り合った奥様と子どもさんの3人暮らし。ちなみにこの冊子の表紙を飾ってくれました。岩見沢市観光物産拠点センターイワホの運営など、多彩な活動で岩見沢の暮らしに積極的に変化をもたらしています。

大学進学を機に、岩見沢市へやってきた竹下さん。

卒業後も岩見沢に残り、家庭をもちました。さまざまな仕事を生み出す「アイデアマン」竹下さんが見る、岩見沢の姿についてお話を伺いました。

#### —— そもそも、北海道の大学を選んだ理由は何ですか？

正直に言うと、北海道か沖縄のどちらかにしようと思っていました。せっかく大学という大義名分をもって実家を出られるので、どうせなら思い切り遠くに行こうと。海外に行くまでの勇気はありませんでしたが(笑)。

#### —— 岩見沢に住み続けようと思ったのはなぜですか？

これぞ、という理由はないのですが、自分のやってみたいことに挑戦していたら、いつの間にか10年以上経っていたという感じです。

#### —— 最初の挑戦はどんなこと？

在学中に、学習塾を始めました。自分が教育大生だとい

う利点と、子どもの学ぶ機会を広げたい気持ちがあったからです。地元の大学生がその地域の子もたちとかかわり、地元根付いた大学にしたい、という思いもありました。大学近くのアパートを塾用に賃貸し、大学の同期や後輩に科目の先生をお願いしました。通ってもらいやすくするため料金設定も工夫しましたし、自分が卒業しても後輩に託して継続していきえるようにとも考えていました。生徒さんから「勉強が楽しくなってきた」などという声が聞けると、本当にうれしかったですね。

#### —— そうした経験を活かして、いくつもの会社や団体を立ち上げていますよね。

はい、岩見沢複合駅舎内の「岩見沢市観光物産拠点センターイワホ」を運営する「一般社団法人いわみざわ駅まる。プ



「竹下商店」の事業にて、地元のピアガーデンで惣菜を販売しているところ。「地域の食材を活用して地域のイベントを楽しんでほしい」という思いがこもっています。

プロジェクト」、それからイベント企画制作会社「アイステージ」に、「除排雪相談センター」を運営しています。食関係の「竹下商店」では、岩見沢市内のイベントに参加していて、毎年7月に行われる音楽フェスにも飲食ブースを出していますし、地元の生産者さんから仕入れたタマネギで焼きそばソースを作り、ブースで提供しましたね。

—— 岩見沢の秋のお祭り「ふるさと百餅祭り」でもイベントを企画されたとか。

これは「アイステージ」の事業ですね。2016年の百餅祭りでは、「ニジマス釣りばり」とその一角の飲食ブースの管理運営を行いました。のぼりやポスターなど装飾資材のデザインは自分で作っています。ブースは、地元岩見沢の飲食店にできるだけ入れていただくようにして、「地元のみんなで作るお祭り」という意識を大切にしたいなど。

—— 今回のインタビュー場所でもある「岩見沢観光物産拠点センターイワホ」について教えてください。

岩見沢複合駅舎の1階にあり、主に観光案内、特産品の販売、地元食材を使った喫茶店の3つを行っています。特産品のPRは店頭販売だけでなくブログやツイッターも活用しています。『喫茶イワホ』では岩見沢産の小麦や米粉を原料にしたパンやクレープを提供し、地元の食材を活かした「食」の提案も続けています。岩見沢駅内にありますから、観光客だけでなく地元の方もよく訪れますよ。「どこそこの親戚に会いに行くか

ら、岩見沢のお土産を持って行きたい」って、買い物にきてくださいます。同じ空間にある岩見沢市観光協会と協力し、これからも地元の良さを多くの人に伝えて行きたいですね。

—— 「アイステージ」「竹下商店」「イワホ」いずれも、岩見沢を盛り上げたいという気持ちが表れていますよね。

自分のマチでこんな素敵なものが作られていることを知ってほしいですね。それはきっと、自分のふるさとへの誇りとか愛情につながると思うんです。あ、飲食スペースで提供しているコーヒーやトーストのパンも市内の専門店から仕入れています。僕自身が美味しいと思ったものを使っているので、自信をもってお出しできます。ぜひ食べに来てください！

—— そして気になるのが「除排雪相談センター」。ドカ雪の岩見沢らしい事業ですね。

岩見沢の人は雪に慣れているとはいっても、やはりさまざまな困りごとが起きます。原因も状況もそれぞれですから、まずはお話を聞くことから始めて、対策となる事業者の紹介や市の窓口を案内します。自分で対応することもありまして、僕自身もダンプカー2台、ショベルカー2台を所有しているので、冬は除排雪作業を行いますよ。

—— なぜこの事業を始めたのですか？

岩見沢では、「家の中にいても怖い」というほど雪が多い時期もあります。たとえばたっぷり屋根に雪が積もったところで暖気が流れ込むと、急に重みを増して、古い家だときしむこともあって…。でも、そういうふうにいる人はたくさんいるのに、除排雪の



2016年ふるさと百餅祭りでの「ニジマス釣りばり」のブースにて。ビニールプールにニジマスを入れ、10分500円で釣ってもらう企画。釣れたニジマスはもちろん持ち帰れます。



仕事を辞めていく事業者さんも多いんですよ。仕事があるのに辞めるのはなぜだろう?と疑問を持ったので、「まず自分でやってみよう」と。季節雇用の方を含め、6人ほどで回していますが、5シーズンを越えてようやく、社員を雇用できるまでに伸びてきました。

—— 除排雪の仕事は、昼夜逆転、体力勝負でたいへんだと聞きますが……。

そうですね(苦笑)。時間は不規則になるし、睡眠不足でかなり過酷なシーズンを過ごします。ですが、課題をクリアするために知恵を絞って挑戦することはやりがいがありますよ。特に岩見沢って、本当に一週間毎日雪が降り続けることがあるんです。ですから除排雪事業者はほとんど寝ずにショベルカーに乗り続ける…この過酷さっつらないですよ!(笑)この仕事をしている事業者はみんな、覚悟と誇りをもって取り組んでいます。

—— ちなみに、次は何に挑戦しようとお考えですか?

実は、製造業をしてみたいんです。農産物の加工品を作りたいと考えていて、家庭菜園で山菜を栽培しています。自分で育てるところから挑戦して、加工場も自前で用意したい。加工場ができれば雇用にもつながりますから。

—— そこで見えてきた課題は?

農業は難しい(笑)!ちゃんと利益を上げるにはトラクターなどの農業機械を動かせるだけでももちろんダメで、カンも必要だし、学ぶ心も重要。器用な人でないと続けられないと思います。加工場もいろいろ法律上の決まりがありますので、ひとつずつクリアしていく必要がありますね。

—— とはいえ、岩見沢に縁もゆかりもない竹下さんが起業するのはたいへんなことだったのでは。

うーん、僕自身はそうは感じていないんです。それなりの苦労はありますが、普通のことだと思う。逆に、僕の出身校でもある「教育大」の学生を大切にしようと思っている人が多いような気がするんです。岩見沢に残ろうとする学生がいると、

マチの人がとても親切にしてくれる。そういう意識が根付いているのが、岩見沢の素敵なところだと感じています。

—— 岩見沢の方々に支えられて15年。次は竹下さんが、岩見沢に住みたいという人のサポートをする番ですね。

そうですね!岩見沢は、そこそこ都会で自然もたくさんあります。人口はもっと増えてくれたら楽しくなると思います。面積や企業の数など、さまざまな面で挑戦するにもちょうどいい規模のマチです。例えば僕が始めた除排雪の事業も、発想を変えれば課題がチャンスになるわけでしょう。休耕地があっても、いくらでもやりたいように農業ができるということ。岩見沢はそんな宝の山。なんでもできる夢あふれるマチだと思いますよ。



実際の排雪作業のようす。もちろんショベルカーの運転席に座っているのは竹下さん本人です!

**取材場所**

岩見沢市観光物産拠点センター  
イワホ

岩見沢市有明町南1-1  
(岩見沢複合駅舎1F)  
TEL.0126-35-4136  
10:00~17:30 無休





農業者に必要なのは、  
コミュニケーション能力。  
より深い付き合いが、経営にも  
人生にも影響を与えます。

## Uターン

まえ だ なお かず  
**前田 直和さん**

岩見沢市出身。札幌市で飲食関係の会社に約11年勤めたあと退職、ご両親のあとを継いで2011年に就農しました。中心作物はタマネギ。北海道固有種の豆類の栽培にも挑戦しており、豆に関わるイベントも企画しています。

### Uターンして約5年。前田さんのふるさと 岩見沢での農ライフについてお聞きしました。

—— 農業の経験はありましたか？

いいえ、まったく。継ぐつもりがないと親の仕事でもよく見ていないものですね(笑)。大学はIT関係、前職は飲食と、ずっと畑違いの道を歩んできました。滝川市にある研修センター

で、座学・実地含めて半年ほど農業について学んだのが人生初です(笑)。その後、岩見沢市などが主催するセミナー等に参加し、農業簿記を勉強。トラクターなどの大型機械の免許も取りました。退職してから2年弱で就農しています。

—— 帰郷し、また就農してどのように感じていますか。

僕の場合は、予想外のことがいくつもあったんです。機械なども古い型だったり修理が必要だったり、思った以上に初期費用がかかったことがひとつ。僕があとを継ぐ予定がなかったので、両親は自分たちの代で農業を辞めるつもりだったんです。それから、農地の広さが中途半端なため、手間がかかる。思い切ってもっと広い方がうちは効率的なんですよ。

—— 広い方が良いのですか？

そうとも限りません。広ければ大型機械で一気に作業ができますし、収量も上がります。基本的に面積×収量が生産者の収入ですから、少ない手間で収入を上げられるわけです。逆



北海道在来種の豆類を20種以上栽培している前田さん。「豆くう人びと 岩見沢」という、豆を通して他業種の方々と交流するグループを運営しています。



に狭いならその広さに合った園芸作物…トマトなどのハウス野菜で単価を上げることができます。

—— なるほど、一概に言えないわけですね。

新規就農の場合は資金が少ないという理由で、トマトから始める方は多いです。そもそも、広大な土地を手に入れることも簡単ではありませんしね。ただ、北海道では新規就農で認められるのは2ヘクタールからという規定があり、そこにトマトのハウスをぎっしり建てるには相当な費用がかかりますし、家族経営では手が回りません。となると、露地もののスペースが余ってくる。ここで何を作るか、余らせたままにするか。生産者は効率と収益の両立をよく考えて、栽培作物を決めるんです。

—— そう考えると、新規就農のほうが苦勞が多い？

これもそうとも限らないですよ。やはり市や農協も就農者が増えるのはとてもうれしいですから、融資が受けやすかったり所得保障の期間があったりと、さまざまな補助があります。Uターン者とは異なるサポートが受けられますよね。ただ僕は、新規就農を希望する方には「3年くらいは無収入でも食べていけるくらいの蓄えを持ってきてください」と言っています。実際僕も、サラリーマン時代に貯めていた貯金、3年でなくなっちゃいました(笑)。けっこうあったんですけどねえ……。

—— たしかに、金銭的余裕は大切ですね。ほかに、就農するために必要なことは何だと思いますか？

何よりも、コミュニケーション能力。「農」に対して、土や自然にだけ触れていれば良いというようなイメージを持つ方もいるようなのですが、「農業」はまったく違います。地域のほかの生産者さんとの交流は家族のように深く、これが実は重要です。交流して情報を得ないと、知らないうちに知らないまま終わっていくこともたくさんあるんです。

—— 例えばどのような？

台風被害を受けた生産者には補助が出るという情報だとか、いまこういう害虫が発生しているからこういう対策が良いとか。特に、他の地域で同じ作物を作っている生産者とながらすることは絶対に必要だと思います。特に新規就農の方は、積

極的に地域の方々と交流して、自分の居場所を作ってもらいたいと思います。

—— 前田さんが思う、農業の素晴らしさとは。

僕は、農業も「職業」のひとつだと考えています。そのうえで、他業種の方と関わって新たな価値をもつ商品を生み出せるのは、一次産業である農業だからできること。例えば、試験的に栽培しているサツマイモを、他の事業者さんやデザイナーさんと組んで、「干し芋」として商品化するプロジェクトが進行中です。

—— つまり、付加価値。

そう。「面積×収量＝所得」、これが当たり前で正しいことだとよく言われますが、僕はそれ以上のものがあると思っています。付加価値というものをどのように形づくるか、僕に果たしてできるのか——。日々挑戦ですね！



取材日は連続台風の去った直後。ようやく戻ってきた晴れ間とともに、収穫作業を急ピッチで進めていました。

# 住民のマチへの愛あふれる 栗沢町に一目惚れ



## 家族で移住

つちや よしゆき

土谷 義介さん

2016年5月末に移住

北海道由仁町出身。奥様、19歳と15歳の二人の子どもさんとともに移住。

生まれも育ちも由仁町の私。公営住宅に21年住んでいました。子どもも大きくなって、物理的に限界を感じるように。45歳を目標に、一戸建てに住み替えようと考えたのが移住の第一歩でした。

最初から中古住宅がほしかったんですよ。新築で建てると、家は完璧でも庭先まできれいにできるかというところでもないでしょう。逆に中古住宅は、前にお住まいの方次第ですばらしいお庭が手に入ることも夢ではないわけです。DIYも大好きです。



植木鉢が置かれている木製のテーブルは土谷さんのお手製。木製ドラムの部品をリメイク。

インターネットで検索したところ、今の栗沢町の住まいを見つけました。岩見沢市内に住む兄の家に毎年屋根の雪下ろしをしに来ているので、とにかく雪が多いネガティブなイメージがあったのですが、現地見学に訪れてその印象は一掃。

栗沢の町が整然としていて、とても清潔。住宅街の各地域にひとつずつといてもいいほどきれいな公園があるんです。しかもそれを、住民みずから整備していると聞いて驚きました。自分の住む町を美しくしたい、そんな心根の優しさを感じました。気づいたら、2回目の訪問で契約していました(笑)。

家族からの評判も上々ですよ！妻は広いキッチンで料理ができて喜んでいますし、子どもも勉強に身が入るようになったと言っています。何より、家の中ですれ違う時に「お父さんジャマ」って言われないんですから(笑)。

職場は変わらず由仁町で、片道30分強かけて通っています。鉄道路線もありますし、意外と近くてホッとしました。それに、栗沢と由仁をつなぐ道がいくつかあり、気分によって変えるんです。毎日自然の中をドライブして、頭を空っぽにできるのは予想外の収穫でしたね。家族みんながそれぞれに余裕のある暮らしができるようになったと感じています。



一歩踏み出したあとは、  
地域のコミュニティに自分の  
範囲でかかわること。  
それが、移住後の暮らしを豊かに  
にします。

## 先輩移住者からのメッセージ

なかがわ

# 中川さんご夫妻

移住歴18年

たつや ふみえ  
達也さん、文江さん

新潟県出身の達也さんと、北海道出身の文江さん。達也さんが脱サラして始めたパン工房「ミルトコッペ」は、遠方から通うファンも多く、午前中には売り切れることもあるほどの人気店に。文江さんはリンパドレナージュセラピストとして、自宅と東京にサロンを構えています。

中川さんご夫妻が岩見沢市美流渡に移住されてから、2016年3月でまる18年。  
北海道でいくつかの町を渡り歩くうち、美流渡の地に一目惚れし、居を構えました。

—— 美流渡のどのようなところが気に入ったのですか？

文江さん(以下文) 深い森に囲まれていて北海道っぽくないところ。小さな集落到元気な人たちが住んでいて、本州などの里山のような雰囲気なんです。初めての場所なのに懐かしさを

感じて、もう「住みたい！」って。

達也さん(以下達) すぐに当時の町内会長だった、陶芸家の塚本竜玄先生につないでもらいました。「こんなところでパン屋なんてやっても売れないよ！どうするの！」ってビックリされましたよ(笑)。でも「子どもが増えるのはうれしい」といって、現在のミルトコッペである、あまり使われていなかった町内会館に住まわせていただくことになりました。

文 私自身が、マンション暮らしはいろいろな制限があるように感じていて…。子どもは自然に囲まれた場所で、自由に野山を駆け巡らせてあげたいと思っていたんです。子ども時代にやっておくいいことがたくさんあるでしょう。それらを大人の都合で抑えることなく、のびのび育ててあげたいなど。

—— 札幌や恵庭などの都市部に住まわれていたこともあるそうですが、不便は感じなかったのですか？

文 意外と、岩見沢市街地と札幌などの都市圏、空港のある千歳市などのアクセスが良いんです。私は最初の約3年間は



ご自宅は、2015年に知人から購入したログハウス。音楽会やワークショップを開いており、多くの人が集う場になりつつあります。



地下には文江さんが集めた雑貨の展示販売スペースも。「図書館のような存在にしようと思っています」

札幌市内で働いていて、バスやJRを利用して通勤していたんですが、まったく問題がない。札幌市内と岩見沢市街地を結ぶバスも意外と便があって便利だと気づきました。通えますよ、ここから。札幌行きのバス停まで車で約20分で着きますしね。

達 足りないものもちろんあります。ですが、もともと足りていないから、ちょっと不便でも苦に感じないんじゃないでしょうか。

—— 二人の子どもさんはすでに独り立ちし、東京にいらっしゃるとか。美流渡での暮らしをどのように感じていらっしゃいましたか。

文 小さいころは不満もあったようですが、20代後半になって「東京の同年代の友人と話して、価値観の育まれ方が違うと感じた。ようやく両親の思いに気がついた」と言ってくれています。

達 例えば、ここでは運動会が学校ごとではなく、この地域全体のものなんです。子どもが自分より年下の子の面倒を見て、その下の子が育てばまたさらに下の子に目をかけていく。こうして育まれた心は、高校進学で外に出た時から大きく影響していくものです。こんなふうには、美流渡で育った子どもたちが外に出て活躍してくれることもたいへんうれしい。

—— 美流渡の暮らしの中で気づいたことは？

文 町内会などコミュニティが非常に重要。札幌などに住んでいた時はまったく興味がなかったのですが、まず移住する時に前述の塚本先生にお世話になり、美流渡支所の職員さんに助けてもらい…

達 しかも美流渡は炭鉱町で、もともと外からやってきた人が多いんですよね。だからよそ者をあまり抵抗なく受け入れてくれて、世話好きな人が多い。あと、PTAの大切さも忘れてはいけませんね。学校行事の時だけ会うのでは終わらなくて、親戚のような付き合い方と言ったらいいのかな。

文 ですが、家同士は都会みたいに密集していないので、とても心に余裕のある状態がかかりあえる。ストレスのない暮らしができると思いますよ。

達 いま、その土地で暮らしている人と新たに訪れた人が、互いに無理なく響きあうような関係作りが大切ですよ。

—— まもなく移住から20年。移住を考えている方へメッセージを。

文 「生きていくこと=人とかがわかること」だと気づかされました。とにかく飛び込んでいくことが、交流の糸口になります。

達 それって暮らしの本質なんだと思います。私たちの世話をしてくれた人たちも、何十年も何代も前に移住してきたわけでしょう。もしかしたら私たちは今、その人たちの想いを受け継いで、これから移住してくる方々や、美流渡に集う人たちの場づくりをしていくことが使命なのかもしれないですね。

文 あとは流れに乗ること。大切なのは直感と勢い、なんとかなるさ！という自信！（笑）

達 ……………

文 そういう私が行き過ぎないように、主人が上手に引っ張ってくれているんですよ、凧を操るみたいにね（笑）。



達也さんが焼き上げるパンは、外はカリッと、中はふんわり、もちり。夏も冬も、酵母と薪窯と会話しながら作ります。



### ミルトコッペ

岩見沢市栗沢町美流渡南町90-1 / TEL.0126-46-2288  
9:30～売り切れまで / 月・火曜休 (12～3月は土日のみ営業)